

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600215
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム 大城の里 (ユニット名 コスモス)
所在地	福岡県久留米市北野町乙丸3番13
自己評価作成日	平成29年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳納連山の麓、筑後川の北側に位置し、田園や畑が広がる環境が良い場所にあり、季節の花や移り変わりを感じながら、穏かに安心して暮らして頂けるように支援しています。理念にも掲げる”その人らしく笑顔で暮らす”を念頭に、お一人おひとりの個性や趣味を大切に考え、公文学習や頭の体操、筋力維持の為の歩行訓練や体操など個々の希望や状況に応じて行っています。体調にも十分な注意を行い、病気の予防や早期発見に努め、状況や希望に応じて最後まで穏やかな毎日を送って頂ける様に、ご家族と主治医・看護師・職員が連携できる支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事等に参加し、地域に関わりを持ちつつ、ご利用者が自宅に居られる様に自然に暮らして頂く為に、ケア会議やミーティング時に意見交換し、理念に基づいて介護を行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、お祭りへの参加や、地域の保育園児との交流会や小学校での認知症サポーター講座に参加するなど、地域との交流を大切に考えている。又、隣接する酒蔵の蔵開きを見学する等、地域に目を向けた外出や行事を行っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員さんや包括センター等に参加して頂き、意見交換を行ったり、地域の方の見学も歓迎している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、ご利用者やご家族の代表に参加して頂き、会議の中での直接的な意見を取り入れ、サービスの向上に繋げている。又、老人会などで事業所の説明やPRを行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市の介護課の方に参加して頂く事で、事業所の現状を伝え、不明点や問題点等の意見を伺い改善に努めている。又、何等かの問題発生時にはその都度、連絡を行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・身体拘束廃止委員会を設け、アンケートを行い日々のチェックを行ったり、定期的に勉強会や外部研修に参加し、拘束の具体例や拘束から起きる悪影響等を学習し、拘束を行わないケアを実践している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束廃止委員会を設け、マニュアル作成を行ったり、日々のミーティング等でグレーゾーンを含めた行為の確認を行い、防止に努めている。又、定期的に勉強会やアンケートを行い、意識向上に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で勉強会を行ったり、外部の研修への参加、施設内での勉強会等で制度に対する理解を深める努力を行っている。また、ご利用者の入居時や家族会の時に制度の説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や契約時には契約について説明を行い、解らない所や疑問点を納得して頂ける様に説明や話し合いを行っている。改定等の場合には文書と口頭で理解して頂ける様に説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、常会を行い食べたい物や行きたい場所、困っている事などを尋ね、食事や行事に活かしている。ご家族には、家族会や運営推進会議等で意見を出して頂いたり、「ご意見箱」の設置や面会時の会話からも意見を頂く機会を増やしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や毎日のミーティング、連絡ノート等から意見や提案を出し易いようにしている。又、運営者には法人の運営会議やその時々報告や相談を行い意思の疎通を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務について希望がある場合、調整を行い出来るだけ希望に沿える様に努力をしている。また、やりがいや向上心を持って働ける様に、勉強会や研修への積極的な参加を促している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の思いや考えを尊重し、働きやすい職場づくりに努めており、社会参加の権利も保障している。又、性別や年齢により採用対象より外れない様にしている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者、お一人おひとりの人権を尊重し、自己決定が出来る様に支援・協力しご本人の思いを大切に職員になれるように、勉強会や研修への参加などで人権教育や啓発活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体や法人内のグループホーム合同で勉強会や研修を行い、知識や技術を学び日々の業務に活かしている。又、外部の研修等にも積極的な参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市の研修や勉強会、外部の研修等に参加し同じ仕事をしている方々との交流を支援し意識の向上を促している。また、法人全体や法人内のグループホーム合同で勉強会を行い介護の質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との事前面接やご家族との面談を行い、ご要望や不安に思われている事を把握するように努めている。又、その情報を職員内で共有し、ご利用者様が安心して生活して頂ける様にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や事前面接において、ご要望や不安に思われている事、疑問点等を伺っている。入所後は些細な事もご家族に報告している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時や事前面接時に、ご本人やご家族とよく話し合いを行い、今の状況を十分に把握しご希望に沿うようなサービスの提供に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人おひとりの状況を把握し、それぞれのしたい事、出来る事を毎日の家事活動において分担し、共に支え合い生活できる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況を面会時や2ヶ月毎に状況報告書にて報告し、必要に応じてはご協力して頂き、共にご本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様ご馴染の人との関係を持続出来る様、面会に来て頂いたり、ご本人の外出を支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場において、ご利用者様同士がより良い関係を築ける様に席の配置や共同の家事活動の分担を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご利用者様の状況や経過の確認を行い、ご要望があれば相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症状の進行もあり、ご本人から希望や意向を汲み取る事が難しい場合もあるが、今までの生活歴や日常の会話や生活の中から見つけ出しケアプラン作りを行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方の面会時に現状等をお話する中で、在宅時の様子や性格、好みの物などを伺いながらこれまでの暮らしの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携し情報の共有を行い、お一人おひとりが今、出来る事を継続出来る様に支援や声掛けを行っている。又、お話を傾聴し心身の安定を図るとともに現状の把握にも努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の意向に添えるようにスタッフ皆で話し合いを行い、主治医等にも相談しながら介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にチェック表を作成し、毎日の観察や気付き、ケアの実践結果などを記入している。また、ミーティング等で気付いた事などを話し合い、今後のケアや計画・見直しなどの参考にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の要望に沿える様に職員間で意見やアイデアを出し合い、多面的な意見や考え方が援助に反映が出来る様にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の外出や室内での行事、地域の清掃や行事への参加やボランティアの慰問など、楽しみながら笑顔のある暮らしが出来る様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常日頃より家族、かかりつけ医との連携を図り、日々、ご本人の様子は把握し、変わった事があれば家族やかかりつけ医に相談し、適切な医療を受ける事が出来る様に支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にご利用者の体調の変化や気付いた事を報告し、適切な医療を受ける事が出来る様に努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された時はお見舞いに行き、担当医と情報交換を行い早期退院出来る様に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期や看取りの説明を行い、状況に応じて再度説明を行っている。看取り期にはチームケアに基づき他職種と連携しながら支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや勉強会で学んだ事を通じて、実践に繋がっている。年に1度は消防署より講習を受け実践に繋がっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中、夜間想定)の内、1回は消防署の立ち合いの元、指導やアドバイスを頂いている。又、訓練時は職員の緊急連絡網にて休みの職員も駆けつけられる体制を取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者お一人おひとりの人格やプライバシーを尊重を、常に人生の先輩である事を念頭におき、言葉掛けプライバシーが守られる対応を行っている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1度、ご利用者が食べたい物や行きたい所を聞き、可能な限り実現している。又、希望や要望が言いやすい状況を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間という時間の中で、出来るだけご利用者のペースに合わせた生活を送って頂ける様に心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や歯磨きの声掛けを行い、洗面台にはヘアブラシなどを用意し、自分で出来る事はして頂く様にしている。自分で出来ない方は職員が介助を行い身だしなみに気を付けている。又、季節感のある清潔な服装をして頂ける様に心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常会の時に好きな物や食べたい物を伺って誕生日の献立に取り入れている。おやつの際の食器を職員と一緒に洗って頂く等、その方に応じた仕事をして頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態を把握し、ミキサーや刻み、水分へのとりみ付け等、個人に対応した食事をお出ししている。体調不良等で食事が進まない時は好きな物をお出ししたり、摂取量の確認や記録を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂き、歯ブラシを利用できない方はガーゼやスポンジを利用して口腔内のケアを行っている。義歯は毎晩、洗浄剤を利用し清潔に努め、必要に応じて歯科往診を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態を把握し、定時誘導や間隔を見計らっての声掛けを行っており、リハビリパンツやパットの使用を減らせる様、自立に向けた支援を行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かし、こまめな水分補給や毎日のヨーグルトなどの便秘予防を行い、主治医への相談により薬の調整も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や入浴時間、室温や湯の温度を出来るだけ好みに合わせて、毎日の入浴を楽しんで頂ける様にしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠して頂ける様に日中なるべく身体を動かして頂いている。不眠時にはお話を傾聴し安心して休まれる様、その都度対応している。朝、遅く起きたい方はゆっくり休んで頂き、朝食の時間をずらすなどの対応をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更がある場合は、日誌等に記入し、看護師やCW同士の申し送りを行い、服用時にもチェックを行い一人ひとりの服薬の管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、頭の体操、新聞や雑誌を読んだり、それぞれの楽しみや気分転換を行って頂いている。また、洗濯物を畳んだり食器を洗ったり、その人が出来る事を協力して頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その時々のお花を見に行ったり、初詣や紅葉見物など、季節や時期を大切にした外出行事を行っている。また、ご利用者の体調やその日の気温や天気に合わせて近隣の散歩を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より所持金をお預かりし、必要時に使える様に台帳を作成し管理している。また、3ヶ月毎に収支報告を行い、ご家族に確認して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話連絡は直ぐにご利用者に取り次ぎを行い、手紙や年賀状もご本人に手渡し、ご返事がある場合は、葉書や切手の準備や投函までを行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時にはTVを消して静かな音楽を流したり、室温や外光・照明の調整、居室やリビングの整理整頓を行っている。又、季節の雰囲気づくりにも力を入れている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごして頂いたり、リビングで皆でTVを見たり、ご本人の意志を尊重し生活して頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れた物を持参して頂き、少しでも居心地の良い環境を作っている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者それぞれの心身の状態に合わせ、出来る事はなるべく自分でして頂き、トイレ・居室を明確に表示し、移動スペースを広く確保し、安全にも配慮している。		